

【フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

玉名市立築山小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	2	1	18	29
児童数	97	91	108	113	90	77	2	578	

実践研究の概要

1 研究主題

**確かな学力と 豊かな心を持ち たくましく生きる  
築山っ子の育成をめざして**

2 内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年において、全教科・全領域で、学校教育目標「豊かな心を持ち、学力を備え、体力に富む子どもの育成」の具現化をめざす。「知・徳・体」3つの柱における主な研究教科は、下記の通りである。

- <全学年・国語科> 児童の実態から、本年度より研究が必要と考え実施。
- <全学年・算数科> 児童の理解の状況に差がしやすい教科であるため。  
低学年(ＴＴ) 中・高学年(少人数指導) 教科担任制(高学年)
- <全学年・道徳> 児童の実態からも、必要であると考え実施。
- <全学年・体育> これまでの継続実践と児童の実態から実施。

(2) 年次計画

平成  
14  
年  
度

テーマ

「生きる力」をはぐくむ教育課程の創造

～「基礎・基本の定着」「豊かな心の育成」「健康・体力の向上」を通して～

仮説

全教科・全領域において、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実や、豊かな心の育成、健康・体力の向上を図っていけば、子どもたちの「生きる力」をはぐくむことにつながるであろう。

平成  
15  
年  
度

テーマ

確かな学力と 豊かな心を持ち たくましく生きる  
築山っ子の育成をめざして

仮説

基礎・基本の確実な定着を図る取組や、道徳教育の充実、教科体育の充実によって、知・徳・体のバランスが取れた「生きる力」をもった子どもの育成につながるであろう。

研究の内容・方法

国語科・算数科

授業の充実 : 基礎・基本の明確化。学習形態の工夫。

日常的な実践 : 伝えあう場の設定。スキル。コーナー設置。

道徳

道徳の時間の研究推進 : 多様な授業の創造、充実。

全教育活動における充実 : ボランティア活動、心のノート活用

体育

教科体育の充実 : 単元計画作成。教具開発・学習カード。

教科外体育の充実 : ハッスルマッスルタイム。スポーツ大会。

健康教育 : 元気度検査 ( 基本的生活習慣の向上 ) 。

平成  
16  
年  
度

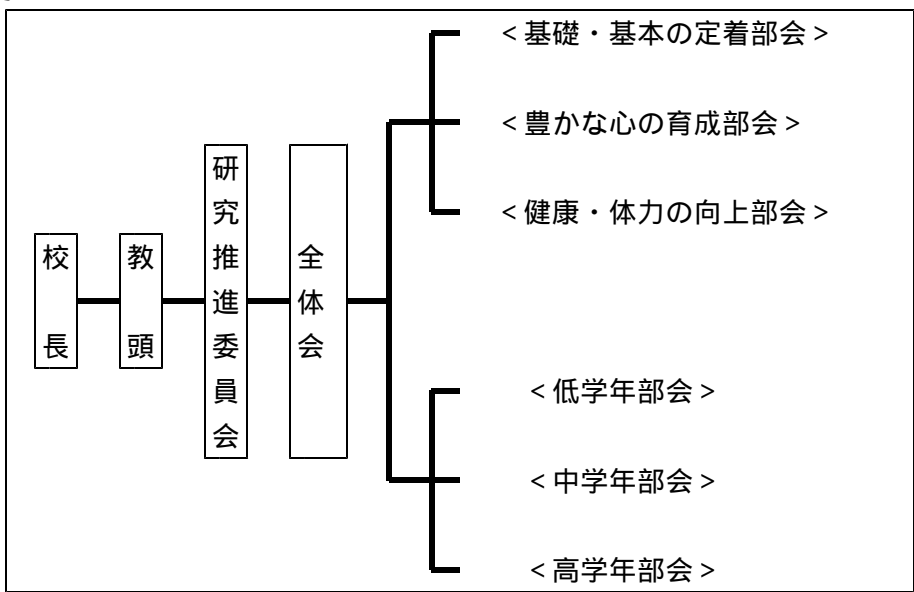
テーマ

子どもたち一人ひとりに新世紀を生き抜く力をはぐくむ  
教育をめざして

仮説

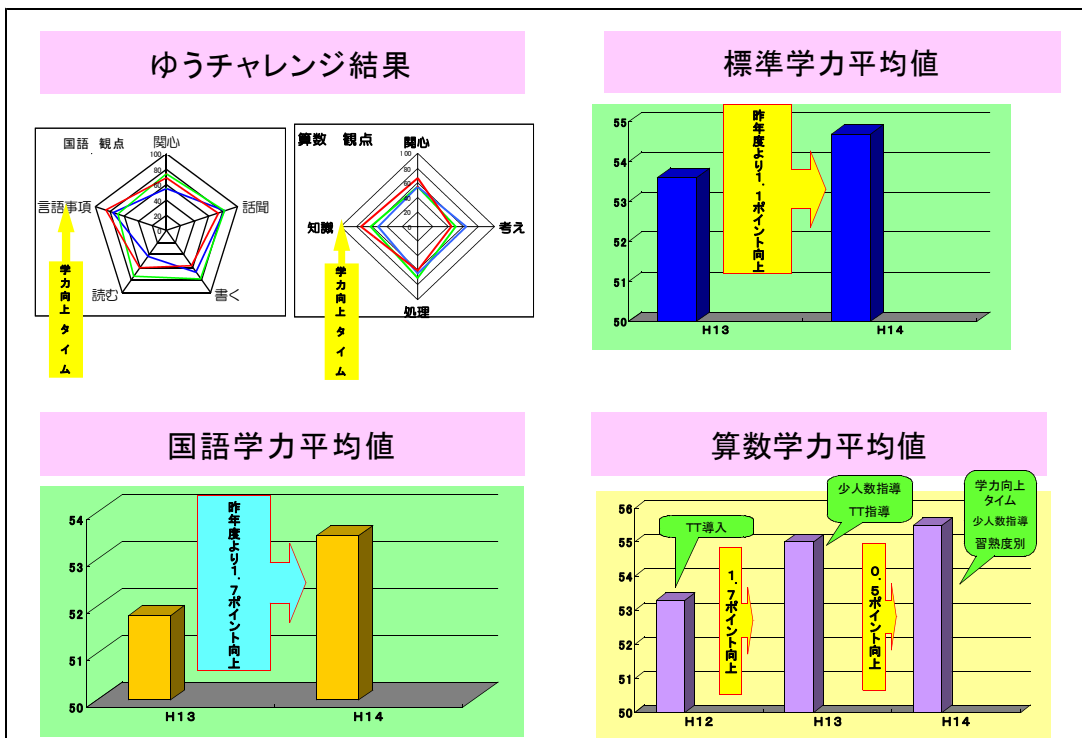
「確かな学力」「豊かな心」「体力の向上」を柱とした全教科・全領域における実践を重ねることで、真の「生きる力」をもった児童の育成につながるであろう。

(3) 研究体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

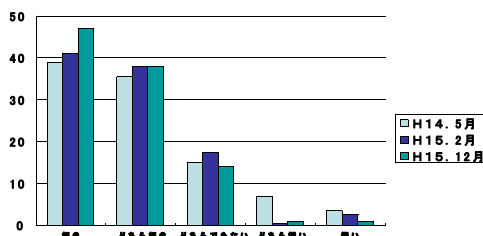


授業の充実を図ったり、学力向上タイム等の継続実施から、言語事項や知識面での向上がみられた。また、学力向上平均値も上記のような結果が出ている。

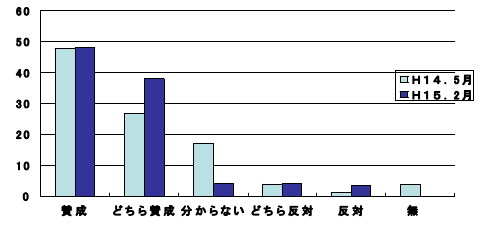
「話すこと・聞くこと」に取り組んだ結果、日々の生活の中でも話すことや聞くことに対する意識が高まり、自分のことばで思いを伝えようとする姿が見られるようになってきた。教師の評価も0.8向上し3.6(5段階中)に向上。

「算数が好き」と答えた児童が増え、子どもの学習意欲が高まっている。  
算数コーナー設置により、楽しみながら課題に取り組む姿がみられる。

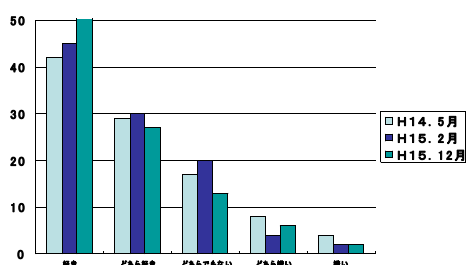
教科担任制についてのアンケート  
児童(5・6年200名):%



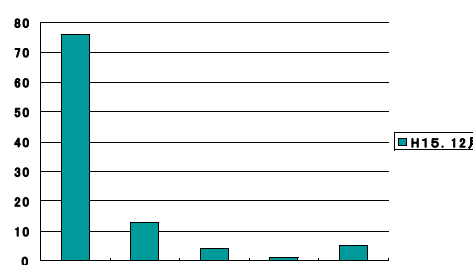
教科担任制についてのアンケート  
保護者(5・6年150名):%



少人数指導についてのアンケート  
児童(3・4・5・6年399名):%



TTについてのアンケート  
児童(1・2年186名):%



個に応じた指導方法の工夫として TT・少人数指導・教科担任制を実施。アンケート結果からも上記のように、「好き」と答えている児童が増えている。

少人数指導が好きな第1の理由は「今までより分かるようになった。」である。また、98%が話を聞き、「発表が増えた」と答えている。保護者の92.2%が少人数制導入に賛成である。

教科担任制により、1クラスを7～8名の教師が担当するため、多面的な児童理解に繋がった。教科担任制が好きな理由は「いろいろな先生と学べ楽しい。」ということが1番多かった。話を聞くこと、発表回数が増えた点も成果である。

TTは児童の9割が楽しいと答え、8割がよく分かれると答えている。全クラス同じ授業を実施することで基礎・基本の定着が図られた。

学力向上タイムでは、「進んで問題に挑戦している児童」が8～9割と、主体的な学びに繋がっている。

道徳的価値の自覚を図る指導方法の工夫やゲストティーチャーの協力による多様な授業づくり、「心のノート」を学習シートや板書構成にも活用し、道徳の授業の更なる充実が図れた。

全教育活動における道徳教育の充実を図ることによって、毎週実施のボランティア活動では、意義や活動もすっかり定着してきた。また、縦割りりふれあい活動では、助け合いや励ましあう場面が多くみられるようになった。読書活動を通して、「本が好きになった」と答えた子どもが70%以上にのぼった。

さらに、基本的な生活習慣・学習習慣について意識化を図ったことで、以前より、スリッパ並べやかさ並べが上手になった。

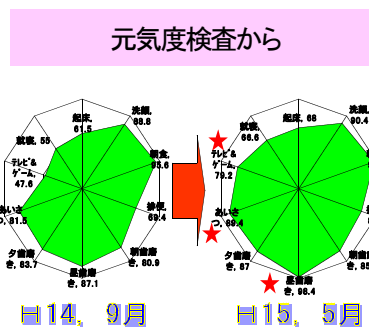
体力向上を目指し、体育の授業づくりでは、運動量を確保し様々なめあてに対応する場づくり、主運動に関係のあるような補強運動を取り入れてきた。

ノートの活用や教材教具の開発、教科担任制・TT により、めあて学習も進んできた。

ハッスルマッスルタイム（体力向上タイム）の取り組みで、スポーツテストの結果を基に補強運動を取り入れたりしている。雨天中止になり「せっかく楽しみにしていたのに、つまないな。」という声も聞かれるほどである。

毎月実施の元気度検査（基本的生活習慣の向上）から、取り組みを重ねた結果昼のはみがきは全クラスほぼ100%にちかい結果を出している。保護者啓発等により、少しずつ改善されてきている。

学校での取り組みを研究部通信「燃える築山っ子」を発行することで、家庭や地域に発信することが出来た。



## 2 今後の課題

基礎・基本の明確化により、指導内容がしっかりしてきたが、今後は、本校児童の実態に合わせ、さらに国語科における指導方法の工夫をしていく必要がある。

算数科における課題としては、数学的な考え方を育てるための指導の工夫をもっと研究していかなければならない。

豊かな心の育成を目指し、多様な道徳の授業を創造し、全教育活動における豊かな体験活動の場の工夫とその充実を図ってきた。本年度の実践の一つ一つのさらなる充実を図っていかねばならない。

個人差に対応できる指導法の確立と、さらに効果的な場づくりの工夫を行うことで、一層運動に興味を持たせられるようにしていく。

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善では、次の3点が課題として挙げられる。

教科担任制：児童とのつながりを持つ工夫。教師間の情報交換の充実。

少人数指導：担当者同士の事前打ち合わせの充実と年間計画の再検討。

TT：T2の役割を再検討し、事前打ち合わせの更なる充実を図る。

徹底指導と能動型学習をめざした授業実践について、教師評価が、昨年度より0.4ポイント向上し、私達教師の意識が変わってきたことがわかる。授業研究会も回を重ねたが、日々の授業の充実につなげるよう、取り組んでいく。

本年度の実践を振り返り、次年度は各種取り組みの精選充実を図っていく必要がある。

## 学力把握のための学校の取組

定期的な学力検査の実施(年 1 回 : 2 月)客観的なデータを得る一手段として実施。

熊本県「ゆうチャレンジ」の実施(年 1 回 : 1 2 月)

知識理解面のみでなく、興味・関心、思考力まで含めてみる目的で実施。

本校作成の元気度検査(月 1 回、1 週間)

基本的な生活習慣の定着が学力向上に欠かせないと考え実施。

本校の取り組みについての児童・保護者アンケート(年 1 回程度)

児童、保護者の思いを把握し、研究に生かすため。

## フロンティアスクールとしての成果普及について

### 公開授業研究会

- ・ 平成 1 5 年 6 月 2 7 日(金) 本校にて 午前 8 時から午後 1 2 時 3 0 分
- ・ 管内の小・中学校を中心に、県下各地約 1 7 0 名が参加。
- ・ 本校の研究について、昨年度の取り組みを発表し、広くご意見をいただき今後の研究に生かすため実施。

### 管内研究員等教育実践発表会での発表

- ・ 平成 1 6 年 1 月 2 8 日(水) 荒尾総合文化センター 全日
- ・ 管内研究員、運営委員、教育委員会、教職員、保護者、学校評議員
- ・ 教育実践発表を行うことによって、実践を広く周知するとともに、指導力向上と学校教育の活性化を図る。

### 本校視察者に対する実践発表

### 研究成果の普及活動の成果

- ・ 研究会等で参加者からいただいたアンケート結果や視察の時に、自分の学校で、早速取り組んでみたいという声があった。そのためには、どのような方法で実践に至り、どんな修正が必要であったか等についての質問が多かった。

- |                      |                                     |              |                                     |              |                                     |    |                                     |     |
|----------------------|-------------------------------------|--------------|-------------------------------------|--------------|-------------------------------------|----|-------------------------------------|-----|
| [継続校]                | <input type="checkbox"/>            | 1 5 年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> | 1 4 年度からの継続校 |                                     |    |                                     |     |
| [学校規模]               | <input checked="" type="checkbox"/> | 1 3 ~ 1 8 学級 |                                     |              |                                     |    |                                     |     |
| [指導体制]               | <input checked="" type="checkbox"/> | 少人数指導        | <input checked="" type="checkbox"/> | T、T による指導    |                                     |    |                                     |     |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> | 一部教科担任制      | <input checked="" type="checkbox"/> | その他          |                                     |    |                                     |     |
| [研究教科]               | <input checked="" type="checkbox"/> | 国語           | <input checked="" type="checkbox"/> | 算数           | <input checked="" type="checkbox"/> | 体育 | <input checked="" type="checkbox"/> | その他 |
| [指導方法の工夫改善に関わる加配の有無] |                                     |              | <input checked="" type="checkbox"/> | 有            |                                     |    |                                     |     |